



World Health Advocacy

情報と患者

2009年5月19日 東京

情報と患者

- 健康情報のニーズ増大
- 情報を持つ患者の特徴
- 健康情報をどこで入手するか
- 調査の概要
- 日本の患者にとって何を意味するか

情報－定義

- “調査、経験、指導から得られる知識”
- “コミュニケーション、情報活動、ニュースから収集・受容した特定の事柄や状況に関する知識”
- “事実またはデータの集積”
- “情報を伝える行為または情報を受けている状態; 知識の伝達”

いかなる定義であれ、健康情報に関して最も難しい問題は「どの様にして情報を入手するか」「その情報が正確であることをどの様にして知るか」という点である



患者はどのような時に健康情報を必要とするか？

- インフォームド・コンセント
- 治療の決定
- 自己の疾患に関する情報（疾患の進行など）
- 手術やその他の治療で予測される結果
- 治療の決定に関わるコスト



健康情報のニーズ増大:



- 患者はより多くの情報/説明責任を求めている
- 高齢化と慢性疾患の有病率増大= 患者サイドのより積極的な関与
- 医学的知識/治療は複雑さを増している
- 医療サービスの形態は進化している:
「保護者型」から協力型へ
- 検証されていない情報の増大(インターネット)
- 我々は人間である: 患者は言われた事柄の最大85%を病院を出て10分以内に忘れてしまう可能性がある

情報を持つ患者は:

- 不安が少ない
- より迅速に治療を受ける(より早期に治療を開始)
- 治療に対する満足度が大きい
- より助言に従う(コンプライアンス向上)
- リスクの低い介入(治療)を選ぶ
- より良い自己管理と
より効率的なリソース活用によって医療費を低減



健康情報をどの様にして入手するか？

- 医師;
- 代替医療提供者;
- 看護師;
- 家族や友人;
- 書籍;
- 研究施設からのニューズレター;
- 電話情報サービス;
- インターネット
- ビデオやチュートリアル
- 雑誌や新聞:
 - 広告;
 - 記事(無償)
- 消費者向け直接(DTC)広告(米国 & ニュージーランド)

調査結果： 健康情報へのアクセス

- Prognos Study（プログノス調査）（ドイツ）
- 欧州患者フォーラム調査（EU5ヶ国）
- 日本患者への薬剤情報

事例: プログノス (ドイツ)

- 患者向け情報に関する調査: アンケート、フォーカスグループ、デスクリサーチ
- 目標: ドイツの患者が利用できるインターネット上の医薬品情報を分析/評価する
- この種の情報に対する患者および一般市民のニーズ/ この種の情報が質という点での期待にどのくらい応えているかを確認

プログノス調査 – 結果

- 患者は情報を探す際サーチエンジンを活用している
- 患者は医師からの情報を補完する目的でインターネットの情報を利用している
- 患者の81%はインターネットで見つけた情報について医師と話し合っている
- 患者がアクセスする医薬品情報の質には疑問があるが、患者はこうした欠陥を認識している
- 患者は医薬品メーカーからの情報提供を歓迎しており、医薬品メーカーをスポンサーとする情報提供の禁止については反対している

プログノス調査 – 結論

- 患者や一般市民は、どの情報が信頼できるかについて、自分なりの判断を下している
- 患者は製薬業界から提供される情報に対して、それが質的水準を満たしている限り、不安を持っていない

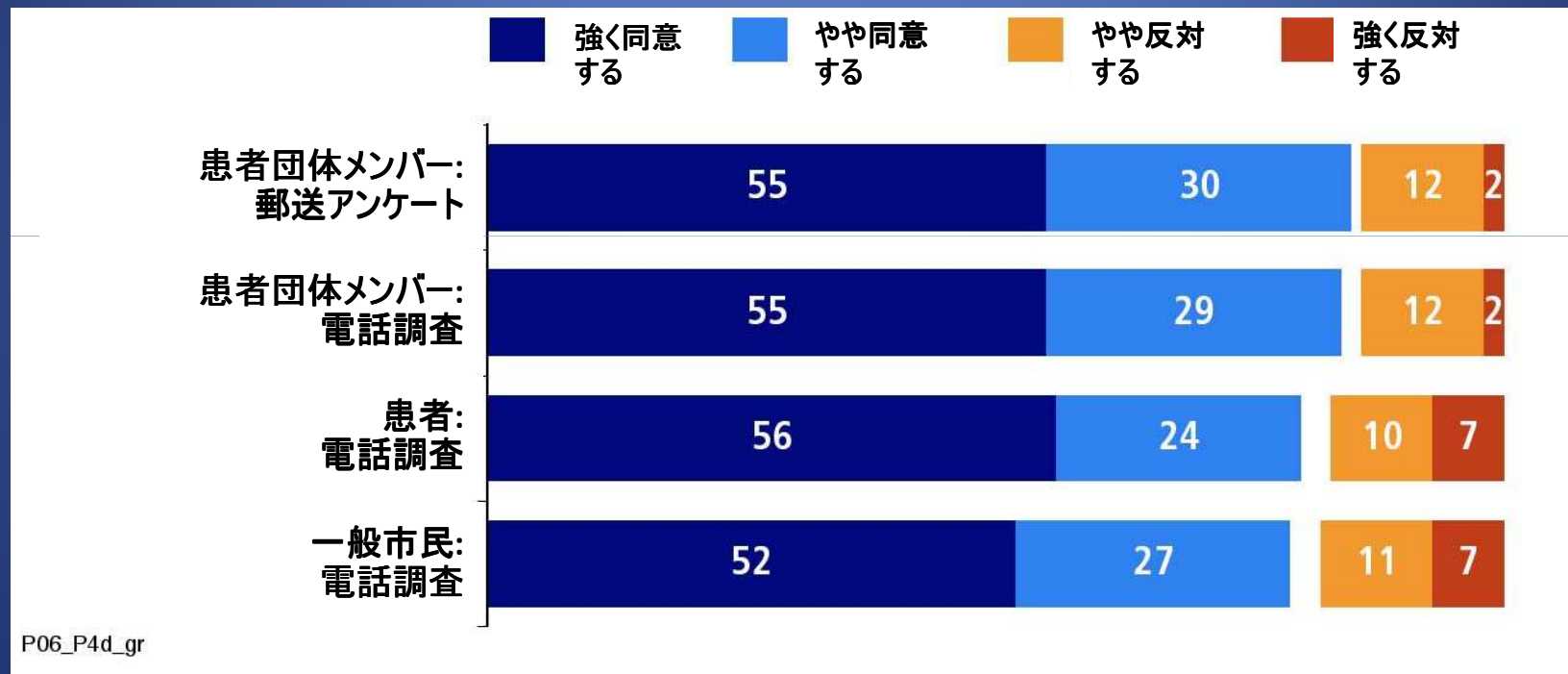
欧州患者フォーラム調査

- 5ヶ国の患者団体メンバーおよび一般市民を対象に調査を実施
- 調査目的: 健康情報へのアクセスに関して患者団体メンバーの見解を評価する
- 患者団体メンバーおよび一般市民の見解を比較
- 郵送調査と電話インタビュー

主要結果

- 患者団体メンバーは健康・薬剤情報へのアクセス面で不満を感じている
- 多くの人が主流の医療制度に不満を持っている
- 調査結果は各国の状況によって異なる
- 各国共通の主要結果:「より良い情報提供を受けている患者がより良い医療を受けている」という考え
- 回答者は多様な情報源から健康情報を入手することが望ましいと考えている
- 患者は、コントロールが医療制度または製薬業界に限定されない、開かれた情報システムを支持している

我が国では、より良い情報提供を受けている 患者が、より良い医療を受けている

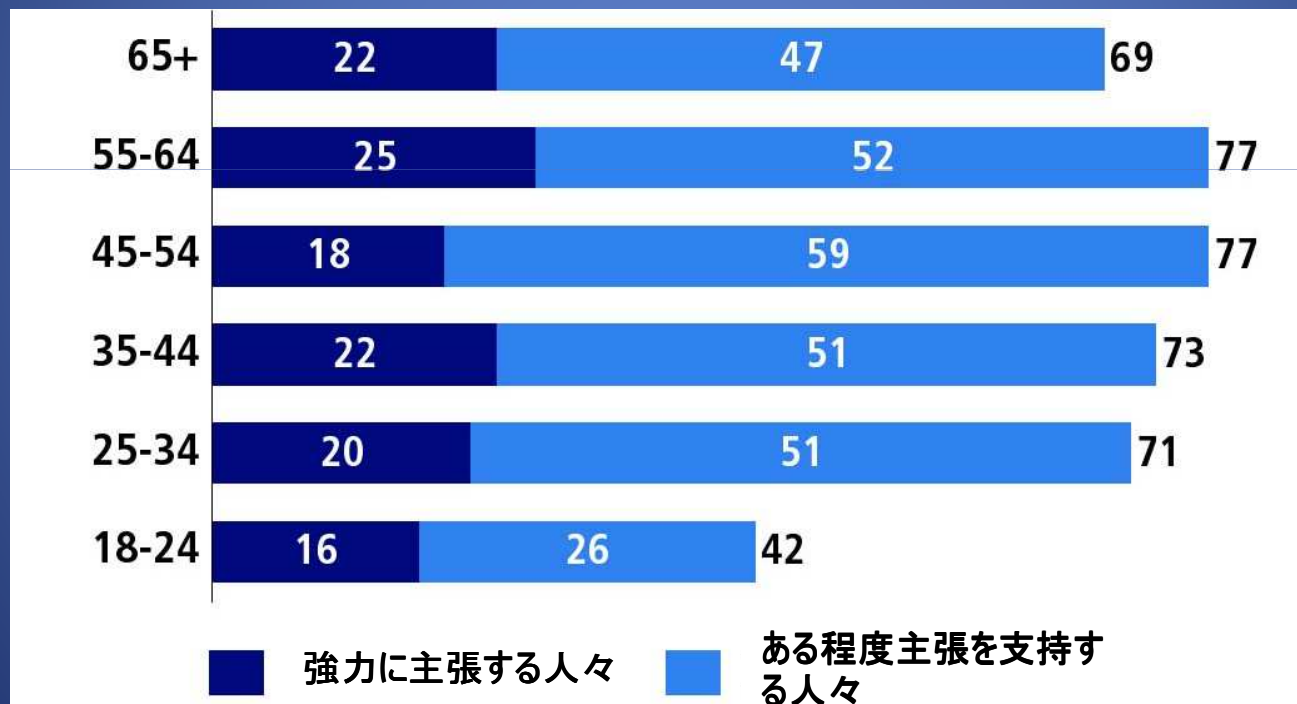


図の白い部分は「分からない/当てはまらない」を示す。

患者への情報提供を主張する人々

彼らは次の点に同意する:

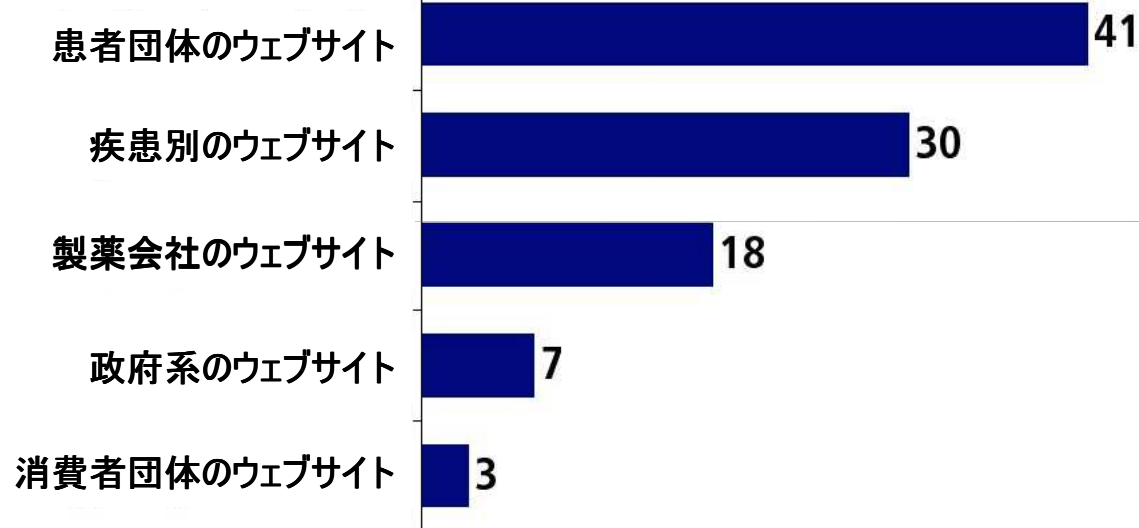
1. 医師に留まらず、より多くの情報源からの健康情報を望んでいる
2. より良い情報提供を受けている患者がより質の高い医療を受けていると考えている
3. 多くの情報源からの健康情報を望んでいる



P06_info_seg_age

GLOBESCAN

処方薬に関して最も役立つタイプの 情報ウェブサイト



P06_P12_total

日本での薬剤情報サービスに関する 患者の意見

- (薬剤師の)カウンセリングを受けた患者2022人をインタビュー
- カウンセリング前に不満度が極めて低かった患者はカウンセリング後の満足度が極めて高かった
- 受けたカウンセリングにほぼ全員が満足していた
- 薬剤情報に対する患者の印象は、薬剤師の印象とは異なっていた
- カウンセリングに対する反応の度合いは患者によって幅広い差があった

健康情報の質的向上に関する 他分野からの提案:

- 主要ステークホルダーが集まり、より良い健康情報のための手段作りで相互協力する;
- 情報の質を保障するための枠組みを作る;
- 新たな情報技術・通信技術をサポートする;
- 情報提供者との調整を図る(合意された基準の使用、良質な情報の効果的提供を推進)
- 患者啓発用プログラムの活用 “期待管理と医療情報” (ビデオ、パンフレット、CD の「防衛的」利用)

上記の取り組み全てが、情報に基づいた意思決定へ向けての患者の能力向上につながる

私たちの現状は？

1. 健康情報へのニーズ増大
2. より多くの情報 = 満足する患者
3. 情報に触れる手段の選択肢は多いが、その質や量はさまざま
4. 患者は情報源に関する選択肢を望んでいる
5. インターネットは大量の情報を提供しているが、問題も多い

日本の患者にとって、健康情報を入手するための最良の手段とは？

➡ それを決めるのはあなた自身。しっかり議論に参加し、それを実現しよう。

ご静聴ありがとうございました

ご質問は?



エリザベス・フォウラー
efowler@whadvocacy.com

613-744-3126